

令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

ヤングケアラーへの早期対応に関する研究

<実施主体名>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

<調査研究報告書の概要>

1. 事業実施目的

平成30年度に実施した子ども・子育て支援推進調査研究事業『ヤングケアラーの実態に関する調査研究』より、要保護児童対策地域協議会でヤングケアラーの概念自体の認知度が低く、啓発や早期発見、早期対応が必要であることが明らかになった。これを踏まえ、本調査研究では、ヤングケアラーの概念の認知を広げるための研修の在り方や、要保護児童対策地域協議会において、現場への過度な負担なく早期に適切に対応していくためのツールやガイドラインについて、研究を行うことを目的とした。

2. 事業実施概要

(1) 調査検討委員会の設置

有識者からなる検討委員会を設置し、調査の進め方や内容、分析の視点等についての助言を得た。

(2) アンケート調査

要保護児童対策地域協議会に対して、ヤングケアラーの認知状況や取組を確認するとともに、ヤングケアラーの早期発見や支援に向けての課題や、アセスメントシートに対する意見を尋ねるためにアンケート調査を行った。この調査結果を踏まえ、ヤングケアラーの状況確認に活用できるアセスメントシートの作成を行った。

(3) ヒアリング調査

ヤングケアラーへの対応を積極的に実施している3自治体にヒアリング調査を実施し、ヤングケアラーの発見や支援に向けた取組やその工夫点、および課題点を把握した。

(4) モデル的研修の実施

ヤングケアラーの概念の認知向上とヤングケアラーへの早期対応に必要な視点等を学ぶことを目的とした研修を2自治体でモデル的に実施し、参加者の意見などを踏まえ、今後全国の要保護児童対策地域協議会で活用してもらえるような汎用性の高い研修プログラムを考案した。

(5) ガイドライン（案）の作成

上記の取組みの結果を踏まえ、ヤングケアラーの説明や支援における留意点などの基本的な理解を促す内容を含んだガイドライン（案）を作成した。

3. 結果

要保護児童対策地域協議会へのアンケート調査を通して、ヤングケアラーの早期発見および支援における課題点を把握するとともに、アセスメントシートに含めるべき項目や観点などを把握した。また、自治体へのヒアリングより、ヤングケアラー支援に関する取組内容やその課題点を把握した。さらに、モデル的研修の成果を踏まえ、ヤングケアラーに関する研修プログラム案を考案した。

こうした結果を踏まえ、要保護児童対策地域協議会向けのガイドライン（案）、およびアセスメントシートを作成し、広く活用してもらえるよう弊社ホームページで公表を行った。